

孔されており、恐らくこの時に割れたものであろう。長さ 1.5 cm, 半径 0.8 cm を測る。

四角柱状未成品は三面が焦げており、残りの面に細部調整が見られ、全体の $\frac{1}{4}$ ほどが欠損している。これら赤瑪瑙は全て焼いてから工作を行なっている。

白瑪瑙はチップ 9 点が採集された。いずれも焼かれている。

碧玉はフレイク状のもの 3 点, チップ 4 点が採集された。いずれも焼かれていない。

このほかにカド石のチップ状破片 11 点が採集された。赤瑪瑙のチップの中には、カド石が一部についているものもあり、このカド石は赤瑪瑙に伴うものと考えられる。

玉類以外のものとしては染付の磁器片が 1 点採集されたのみである。

4. 竹下幹氏寄贈資料

分布調査の聞き込みでたまたま訪ねたところ、玉類を保管されているということで見せてもらい、寄贈していただいたものである。竹下氏の話によれば子供の頃からカマスに入れて置いてあったということである。また自分の家では瑪瑙細工をしたことがないので、どこか他から持ってきたものだろうとのことであった。

寄贈資料は 39 点あり、玉材としては碧玉、赤瑪瑙、白瑪瑙がある。瑪瑙は全て加熱して発色を良くしたものであり、表面の光沢があざやかである。

碧玉は径 1.8 cm あまりの丸玉未成品が 1 点あるのみである。

他は全て赤・白瑪瑙である。いずれも未成品で長方形、直方体、円柱状、板状を呈するものがある。長方形のものはいわゆる管玉未成品に酷似した形状を呈し、長さ 4 cm, 厚さ 2 cm あまりの形割工程のものと長さ 3.5 cm, 厚さ 1.5 cm あまりの細部調整をていねいに行なったものがある。研磨工程のものは 1 点もみられない。

この資料は製作工程がわかりやすいので、今後詳細に技法を検討すれば、古代の玉作製作技法との共通点と相違点を把握する上で良い資料になるものと思われる。

(松本 岩雄)

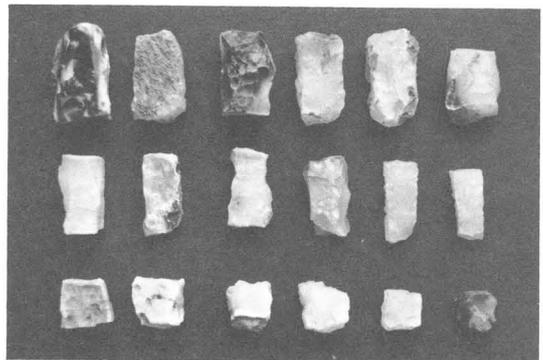


図 126 竹下幹氏寄贈資料

註 1. 勝部衛「めのう掘り聞書」『玉湯町立出雲玉作資料館年報』I 昭和55年

2. 註 1 に同じ。

3. 京都帝国大学「出雲上代玉作遺物の研究」『京都帝国大学文学部考古学研究報告』第10冊 昭和2年

上記文献には昭和初期の玉造における攻玉法が詳しく記述されており、たいへん参考になる。ただし、そこではどのような系譜の下に近・現代の玉作りが行なわれるようになったのか明確な資料にもとづいて触れられていない。今後は近・現代の記録等も散逸しないうちに早急に収集しておくべきであろう。また、近・現代玉作りに伴う玉類未成品や道具類、さらには「瑪瑙細工所」の跡等も把握していく必要がある。

4. 大久保雅弘「玉造めのうに関する最初の地質学的記録」『玉湯町立出雲玉作資料館年報』I 昭和55年

5. 註 1 に同じ。

6. 註 4 に同じ。

7. 註 1 に同じ。

表2 玉作湯神社収蔵庫玉作関係遺物奉納(追加分)一覧

a, 玉類奉納内訳

番号	発見地点	発見の遺物	発見年月日	発見者	備考(単位cm)
443	波止自宅畑	赤瑪瑙勾玉未成品	昭和46.1.26	岩田 吉蔵	長2.5 研磨 図版2-9
444	宮ノ上宮司宅地	碧玉管玉未成品	昭和47.4.8	遠藤 融	長5.0 図版2-7
445	宮ノ上神社収蔵庫東側	赤瑪瑙丸玉未成品	昭和47.6.4	遠藤 融	径1.55 研磨,穿孔
446	宮ノ上神社境内	滑石管玉未成品	昭和48.2.15	竹下 政光	長2.4 研磨,穿孔 図版2-10
447	空口東場宅地	碧玉丸玉未成品	昭和50.4.10	新宮 保重	径1.9~1.5
448	平床自家畑	碧玉管玉未成品	昭和51.10.10	岩田 源助	長2.15 図版2-4
449	平床自家畑	白瑪瑙勾玉未成品	昭和51.10.10	岩田 源助	長3.0 研磨 図版2-4
450	平床自家畑	赤瑪瑙丸玉未成品	昭和51.10.10	岩田 源助	径1.7 図版2-4
451	社務所裏	碧玉勾玉未成品か	昭和52.8.27	遠藤 融	長4.2
452	玉上神田屋宅地工事	碧玉丸玉未成品	昭和52.10.2	錦織 武吉	径2.0 研磨 図版2-8
453	玉上神田屋宅地工事	碧玉平玉未成品	昭和52.10.2	錦織 武吉	径1.8 図版2-8
454	神社収蔵庫東裏	水晶勾玉未成品か	昭和52.10.12	遠藤 融	長3.05 図版2-3
455	神社収蔵庫東裏	水晶平玉未成品か	昭和52.10.12	遠藤 融	長2.6 図版2-3
456	神社収蔵庫東裏	水晶管玉未成品	昭和52.10.12	遠藤 融	長2.9 図版2-3
457	神社収蔵庫東裏	水晶管玉未成品	昭和52.10.12	遠藤 融	長1.55 研磨 図版2-3
458	宮ノ上宮司宅築山	水晶平玉未成品か	昭和54.4.23	遠藤 融	長5.1
459	宮ノ上宮司宅前ノ畑	赤瑪瑙勾玉未成品か	昭和54.5.20	遠藤 融	長2.9
460	玉上宮ノ上横屋下	赤瑪瑙勾玉未成品	昭和54.8.6	新宮 幸男	長3.5 研磨 図版2-6
461	宮ノ上宮司宅	碧玉管玉未成品	昭和56.9.6	遠藤 八千代	長3.2
462	宮ノ上宮司宅	碧玉勾玉未成品か	昭和57.11.5	遠藤 千代子	長5.0
463	宮ノ上社務所前参道	白瑪瑙勾玉未成品か	昭和60.9.6	遠藤 融	長3.7
464	宮ノ上神社収蔵庫前庭	水晶丸玉未成品	昭和60.9.14	遠藤 融	径1.3
	その他	水晶・瑪瑙片多数			

b, 玉磨砥石等奉納内訳

番号	発見地点	発見の遺物	発見年月日	発見者	備考(単位cm)
291	玉造田中川(生泉裏)	平砥石(花崗岩)	昭和41.7.11	遠藤 融	長35.0 図版3-5
292	代宮家神田畑	円盤形砥石(砂岩)	昭和43.6.16	金森 常太郎	径5.3
293	自宅屋敷内玉空口	筋砥石(砂岩)	昭和46.7.18	新宮 藤吉	長20.0
294	代宮家宮ノ上庭	面直し砥石(花崗岩)	昭和47.4.8	遠藤 融	長8.2
295	代宮家宮ノ上畑(下)	平砥石(花崗岩)	昭和53.5.11	遠藤 孝男	長27.0 図版3-3
296	玉造川湯薬師堂前	筋砥石(花崗岩)	昭和53.9.8	仲田 恂二	長8.5 図版3-1
297	下大谷一人女神社境内	平砥石	昭和53.9.30	遠藤 融	長26.0 中央に径9.5cmの浅い凹み
298	廻り原田の中	筋砥石(花崗岩)	昭和57.3.20	小村 茂雄	長23.0 図版3-6
299	廻り原田の中	六角形砥石(花崗岩)	昭和57.3.20	小村 茂雄	長9.9 図版3-8
300	廻り原田の中	内磨砥石(紅簾片岩)	昭和57.3.20	小村 茂雄	長9.3 図版3-7
301	宮の上神社収蔵庫東側	円盤形砥石(花崗岩)	昭和59.6.3	遠藤 融	長8.5 図版2-5
302	神社社務所西側	面直し砥石	昭和59.8.20	遠藤 融	長8.3
303	宮ノ上代宮家裏	大窪砥石	昭和59.9.10	遠藤 孝男	長39.0 図版3-4

昭和61年6月11日 玉作湯神社宮司 遠藤 融作成

◆ 山陰地方玉作関係参考文献

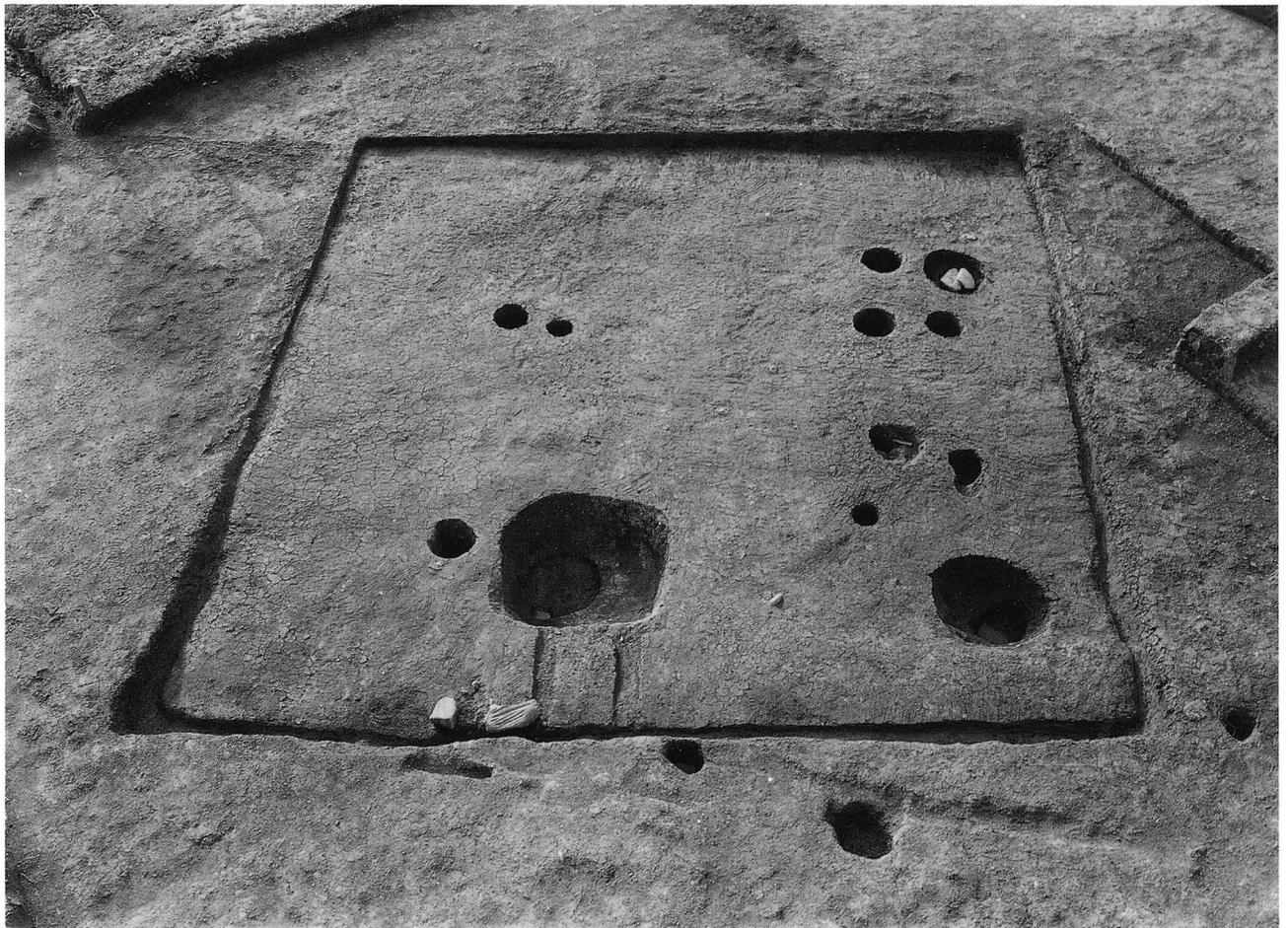
1. 坪井正五郎 「曲玉製造法」『集古会誌』甲辰三 明治37年
2. 大道弘雄 「曲玉砥石につきて」『考古界』第8篇第3号 明治42年
3. 大道弘雄 「探雲記」『考古界』第7篇第11号, 第8篇第1・2・5・9号 明治42年
4. 柴田常恵 「出雲雑記」『東京人類学会雑誌』第25巻 東京人類学会 明治43年
5. 坪井正五郎 「管玉曲玉の未製品」『東京人類学会雑誌』第25巻 明治43年
6. 大野延太郎 「米子旅行記」『人類学雑誌』第28巻第4号 明治44年
7. 吉井太郎 「古代玉類製造所の遺跡」『皇典講究雑誌』第99号 大正5年
8. 梅原未治 「出雲に於ける玉造の遺蹟に就て」『歴史と地理』第1巻第1号 大正6年
9. 梅原未治 「伯耆逢坂村の遺跡」『鳥取県史蹟勝地調査報告書』第1冊 大正11年
10. 梅原未治 「因幡青島の遺跡」『鳥取県史蹟勝地調査報告書』第1冊 大正11年
11. 梅原未治 「因幡浜坂の遺跡」『鳥取県史蹟勝地調査報告書』第1冊 大正11年
12. 野津左馬之助 「御即位と出雲玉作部」『島根県史』3 国造政治時代 島根県 大正12年
13. 野津左馬之助 「出雲玉造に於ける古代ガラス製造考」『島根県史』4 古墳 島根県 大正14年
14. 浜田耕作・島田真彦・梅原未治 「出雲上代玉作遺物の研究」『京都帝国大学文学部考古学研究報告』第10冊 京都帝国大学 昭和2年
15. 野津左馬之助 「八束郡忌部村に於ける上代玉作遺跡」『島根県史蹟名勝天然紀念物調査報告』第3輯 昭和4年
16. 山本 清 「出雲玉作址と遺物」『玉湯町史』上巻 昭和36年
17. 曾根研二ほか 「忌部神戸と玉作の本質変化」『玉湯町史』上巻 昭和36年
18. 水野 祐 「古代出雲の佩玉文化」『出雲国風土記論攷』 昭和40年
19. 大場磐雄・寺村光晴 「出雲国忌部の玉作工房址と出雲玉作」『日本考古学協会昭和39年度大会研究発表要旨』 日本考古学協会 昭和41年
20. 寺村光晴 『古代玉作の研究』吉川弘文館 昭和41年
21. 市村 宏 「瑪瑙と翡翠——出雲と越——」『和歌文学研究21』 昭和42年
22. 加藤義成 「御沐之忌玉作考」『校本出雲国風土記』 昭和43年
23. 福市遺跡調査団 『福市遺跡——鳥取県米子市福市(古塚地区)発掘調査報告書——』米子市教育委員会 昭和43年
24. 近藤 正 「玉作関係遺物」『島根県文化財報告書』第5集 島根県教育委員会 昭和43年
25. 水野 祐 「勾玉」 学生社 昭和44年
26. 大場磐雄・寺村光晴 「島根県松江市中島・後原玉作遺跡」『日本考古学年報』17 昭和44年
27. 近藤 正 『玉造鳥坊遺跡群』玉湯町教育委員会 昭和45年
28. 内田 才 「原始・古代」『安来市誌』 昭和45年
29. 前島己基 「出雲国玉作遺跡の一例——大原郡大東高校校庭遺跡——」『玉』第1号 日本玉研究会 昭和45年
30. 寺村光晴 「史跡出雲玉作址の調査とわが国の玉作遺跡」『日本歴史』第278号 昭和46年
31. 内田 才 「安来にもあった玉造——攻玉遺跡の発見——」『季刊文化財』第18号 島根県文化財愛護協会 昭和47年
32. 山本 清・寺村光晴・近藤 正・前島己基 「史跡出雲玉作跡—発掘調査概報—」玉湯町教育委員会 昭和47年
33. 史跡出雲玉作址調査団 「史跡出雲玉作址の調査」『考古学ジャーナル』第65号 昭和47年
34. 末永雅雄・石野博信 「出雲玉作遺跡」(財)観光資源保護財団 昭和49年
35. 寺村光晴 「出雲国玉作の系譜——出雲国風土記所載の「忌玉作故忌部」をめぐり——」『和洋女子大学紀要』第18輯 和洋女子大学 昭和49年6月
36. 東森市良 「大東高校グラウンド遺跡」『日本考古学年報』26 日本考古学協会 昭和50年
37. 松本岩雄 「平所遺跡」『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』I 島根県教育委員会 昭和51年
38. 前島己基・松本岩雄・三宅博士・勝部 衛 「平所遺跡(2)」『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』II 島根県教育委員会 昭和52年
39. 寺村光晴・松本岩雄 「出雲国玉作の出現と系譜」『日本考古学協会昭和52年度大会研究発表要旨』 昭和52年
40. 津川ひとみ 「高浜出土の管玉未製品について」『長瀬高浜だより』8号 長瀬高浜遺跡調査事務所 昭和54年
41. 加藤義成 「文献に見る玉作りについて——出雲国風土記を中心として——」『松江考古』第2号 松江考古学談話会 昭和54年
42. 鳥取県教育文化財団 『長瀬高浜遺跡III——天神川流域下水道事業にともなう砂丘遺跡の発掘調査概報(2)——』昭和55年

43. 勝部 衛・松本岩雄 「玉作り」『さんいん古代史の周辺』〈下〉 山陰中央新報社 昭和55年
44. 坂本敬司 「最近出土した管玉」『長瀬高浜だより』17号 昭和55年
45. 寺村光晴 『古代玉作形成史の研究』 吉川弘文館 昭和55年
46. 津川ひとみ 「玉作遺跡としての長瀬高浜遺跡」『長瀬高浜遺跡Ⅲ』鳥取県教育文化財団 昭和55年
47. 景山俊邦・清水真一 「高浜遺跡玉作についてのメモ」『長瀬高浜だより』21号 昭和55年
48. 景山俊邦 「SI 113 出土の管玉未製品について(その2)」『長瀬高浜だより』29号 昭和56年
49. 景山俊邦 「玉作工房について(その1)」『長瀬高浜だより』28号 昭和56年
50. 勝部 衛 「玉湯町布志名狐廻遺跡」『島根県埋蔵文化財調査報告書』8 島根県教育委員会 昭和56年
51. 清水真一 「鳥取県下の玉作遺跡について」『考古学研究』28巻4号 考古学研究会 昭和57年
52. 渡辺暉夫・勝部 衛 「布志名狐廻遺跡出土の結晶片岩製内磨砥石」『山陰文化研究紀要』23 島根大学 昭和58年
53. 渡辺暉夫・勝部 衛 「島根県玉湯町出土の結晶片岩製内磨砥石の原石供給地に関する考察」『考古学と自然科学』第16号 日本文化財科学会 昭和58年
54. 足立克己・園山和雄ほか「布田遺跡」『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』Ⅳ 島根県教育委員会 昭和58年
55. 鳥取県教育文化財団『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅳ』 昭和58年
56. 渡辺暉夫 「出雲玉作遺跡出土の内磨砥石中の紅レン石の鉱物化学的特徴」『山陰文化研究紀要』第24号 島根大学 昭和59年
57. 足立克己・丹羽野裕 『高広遺跡発掘調査報告書』 島根県教育委員会 昭和59年
58. 勝部 衛 『史跡出雲玉作跡——宮ノ上地区——第1次発掘調査概報』 玉湯町教育委員会 昭和59年
59. 勝部 衛 『史跡出雲玉作跡——宮ノ上地区——第2次発掘調査概報』 玉湯町教育委員会 昭和60年
60. 玉湯町教育委員会 『出雲玉作跡保存管理計画策定報告書——宮垣地区・宮ノ上地区——』 昭和61年
61. 内田律雄 『西川津遺跡の出土品よりみた古代出雲人のくらし展』 島根県立博物館 昭和61年
62. 寺村光晴 「玉と玉作集団」『歴史手帖』第14巻6号 名著出版 昭和61年
63. 寺村光晴 「出雲国玉作の諸問題——『出雲国風土記』と「忌部玉作」をめぐって——」『山陰考古学の諸問題』 昭和61年
64. 勝部 衛 「松江市東忌部町後原遺跡出土の亀甲状石について」『島根考古学会誌』第3集 昭和61年
65. 高橋進一 「忌部神社所蔵の結晶片岩製砥石について」『歴史学通信』第11号 昭和62年





1. 平所遺跡工房跡



2. 出雲玉作跡宮垣地区 71 A 1 号工房跡 (玉湯町教育委員会提供)



1



2

6

7

奉納 新宮幸男
(屋号横屋下)
勾玉 半製品一箇
460



3

8

丸玉
玉
昭和52年10月2日 奉納
神田屋裏 兼地造成中
錦織武吉(屋号新宅)
452



4

9

10

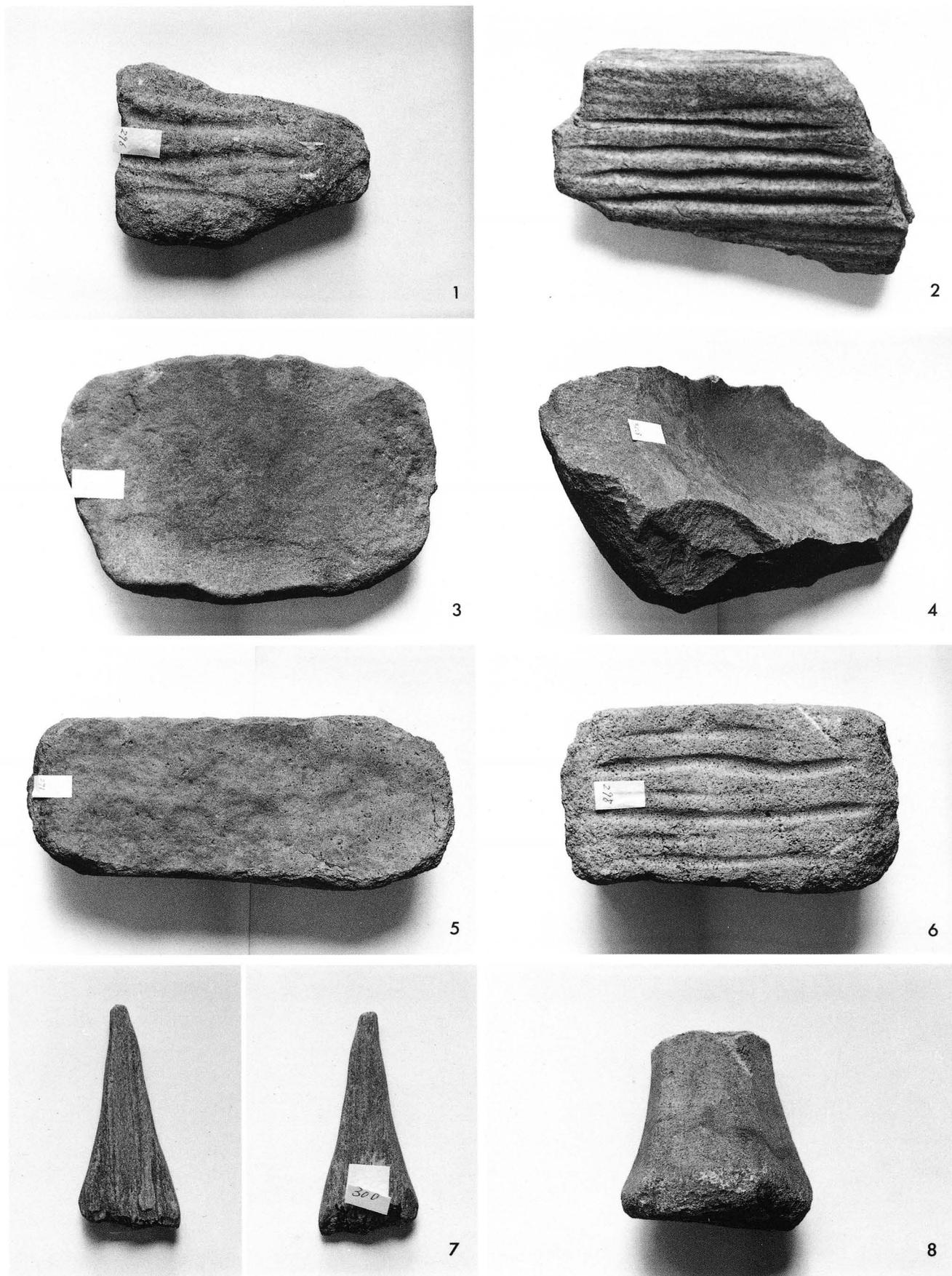
勾玉

奉納
443

昭和46年1月26日 孫権礼
奉納 (館畑中見) (管玉)

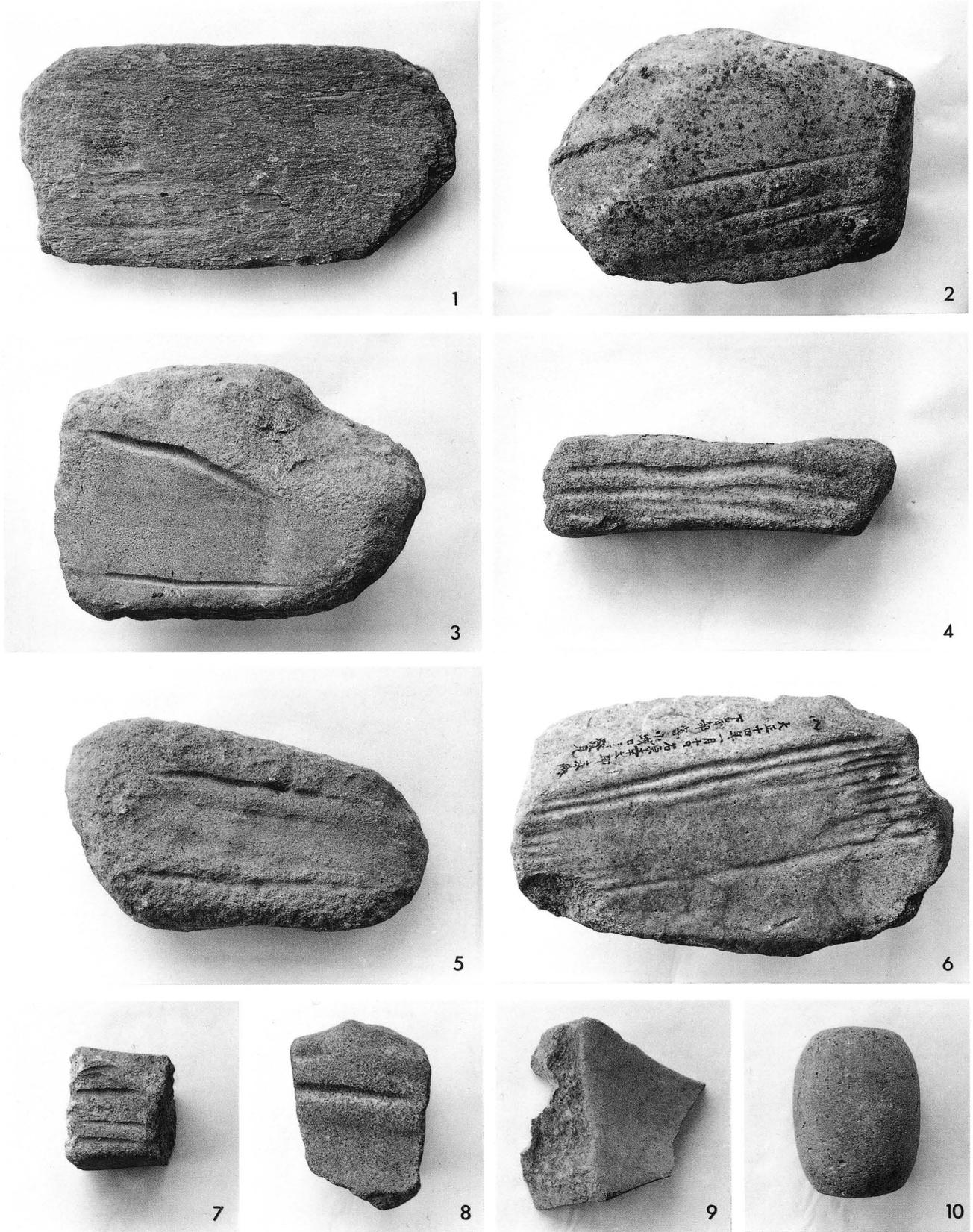
玉作湯神社保管資料(1)

1. 代宮家庭・畑(宮ノ上) 採集
2. 收藏庫・宮司宅付近(宮ノ上) 採集
3. 收藏庫裏(宮ノ上) 採集
4. 平床採集
5. 收藏庫東側(宮ノ上) 採集
6. 横屋下(宮ノ上) 採集
7. 宮司宅(宮ノ上) 採集
8. 神田屋裏採集
9. 波止ノ奥採集
10. 玉作湯神社境内採集



玉作湯神社保管資料(2)

1. 湯薬師堂前採集 2. 上来待佐倉永原良一氏宅採集 3. 代宮家畑(宮ノ上)採集
4. 代宮家裏(宮ノ上)採集 5. 生泉裏田中川の中より採集 6・7・8 廻り原採集



忌部神社保管資料

1. 一崎採集 2. 平松採集 3. 清水尻採集 4. 千本採集 5. 後原採集
 6. 小城口採集 7. 清水尻採集 8. 千本採集 9. 中島採集 10. 後原採集

島根県生産遺跡分布調査報告書Ⅳ
玉作関係遺跡

昭和 62 年 3 月 30 日 発行

発 行 島根県教育委員会
松江市殿町 1 番地

印 刷 有限会社 谷口印刷
松江市母衣町 89